

児童発達支援プログラム

事業所情報

項目	内容
事業所名	社会福祉法人 萌葱の郷 こども発達・子育て支援センター わくわくかん
事業	児童発達支援センター
作成日	2024 年 8 月 7 日
営業時間	9:00～18:00
サービス提供時間	9:30～15:30

※送迎：お問い合わせください。

法人理念

萌葱の郷は、自閉症・子育て総合支援センターとして、成人期の就労や生活、余暇支援だけでなく、幼児からの早期療育や学童期における発達支援も行っています。ライフステージを通じた総合的な見地から、相談、普及啓発、専門家養成などのサービスメニューを提供し、全ての人が育ち、暮らすことのできる地域づくりを目指しています。

支援方針

萌葱の郷では、相手の気持ちを思いやり、相手の立場に立つハート、様々な理論や実践に学ぶサイエンス、即興的に支援者として最善の役割を演ずるアートを、保育・教育・支援の三本柱としています。

支援内容

家族支援

目的

- ・ 子どもの育ちと暮らしの安定：家庭環境を整え、子どもの発達を支える。
- ・ 保護者の心理的負担軽減：保護者の気持ちを尊重し、寄り添った支援を行う。

具体的な支援内容

1.  相談対応と助言：保護者からの相談に応じ、適切な助言や愛着形成を促進。
2.  家庭環境の整備：子育て環境を改善し、安心して育児ができる状況を構築。
3.  関係機関との連携：地域の保育所等や医療機関と協力し、包括的な支援体制を構築。

4.  **個別支援計画の作成**：子どもの発達特性に応じた計画を策定し、家族と共有（保育所等との連携）。
- ・ 保育所保育指針に基づき、保育士等が家庭や関係機関と連携して子どもの発達課題に対応。
 - ・ 利用児が地域社会で共に成長できるようインクルージョンを推進。

■ “これらの取り組みにより、子どもと家族が安心して生活できる環境が整います。” ■

地域支援・連携

目的

- ・ 子どもの発達と生活の安定：地域全体で子どもを支え、成長を促進。
- ・ 包括的な支援体制の構築：関係機関との連携を強化し、切れ目のない支援を提供。

具体的な支援内容

1.  **関係機関との連携**
 - ・ 自治体、医療機関、教育機関、福祉施設などと協力し、子どもと家庭への包括的支援を行う。
 - ・ 児童発達支援センターが中核となり、地域全体の障害児支援の質向上に努める。
2.  **地域活動への参加**
 - ・ 地域行事やボランティア活動を通じて、子どもが社会性や思いやりを育む機会を提供。
3.  **インクルージョンの推進**
 - ・ 障害の有無にかかわらず、すべての子どもが地域で共に成長できる環境づくりを目指す。
4.  **相談・情報提供**
 - ・ 保育所等や児童発達支援センターが「かかりつけ相談機関」として保護者への助言や情報提供を行う。

■ “これらの取り組みにより、地域全体で子どもと家庭を支える基盤を構築します。”

➡ 移行支援

目的

- ・ インクルージョンの推進：障害の有無にかかわらず、すべての子どもが地域社会で共に成長できる環境を目指す。
- ・ 連続した支援：子どもの発達や生活が途切れることなく継続されるよう配慮する。

具体的な支援内容

1.  **アセスメントとニーズ確認**
 - ・ 子どもの発達状況や家族の意向を把握し、移行先で必要な支援を明確化する。

2. 移行先との連携

- 移行先（保育所や学校等）の環境や支援体制を確認し、支援内容や方法を共有する。

3. 段階的な移行

- 子どものペースに合わせて見学や短時間利用を進め、徐々に環境へ慣れさせる。

4. 合理的配慮と受け入れ体制の構築

- 環境調整や合理的配慮を行い、移行先での受け入れ準備を支援する。

5. 家族への情報提供

- 家族が安心して移行に臨めるよう、情報提供や相談対応を実施する。

支援方法

-  同年代の子どもとの交流機会を設ける。
-  保育所等との併行利用日数や時間の調整。
-  移行先スタッフへの研修や助言提供。

“これらの取り組みにより、子どもが新しい環境で安心して生活できるよう支援を進めます。”

職員の質の向上

目的

- 専門性の向上：子どもの発達や支援ニーズに応じた適切な対応を行う。
- 組織的な支援体制の強化：職員全体で支援の質を維持・向上させる。

主な取り組み

1. 体系的な研修計画の作成

- 職員がキャリアパスを意識しながら成長できるよう、段階的かつ体系的な研修を実施。
- 「社会福祉法人萌葱の郷キャリアパス研修」等に基づき、外部研修やオンライン研修を活用。

2. 自己評価と振り返り

- 職員が日々の業務を自己評価し、支援内容や実践方法を改善するために五蘊分析等の方法論を活用。
- 保護者や外部評価も活用し、課題を共有して改善策を検討。

3. 知識・技術の向上

- 育ちのミカタ等の発達アセスメントや専門的な支援技術に関する研修機会を提供。
- チームで活動プログラムを立案し、職員間で役割分担や情報共有を徹底。

4. 施設長やリーダー職員の役割

- 施設長が中心となり、職場内外での研修機会確保や組織的な対応を推進。
- リーダー職員が他職員への指導やサポート役として機能する体制を整備。

5. PDCA サイクルの活用

- 計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）のプロセスを通じて、支援内容や職員のスキル向上を継続的に図る。

“これらの取り組みにより、職員一人ひとりが主体的に学び、実践力を高めることで、子どもたちへの支援がより質の高いものを目指します。”

本人支援

運動・感覚支援

目的

- 身体機能の発達促進：基本的な運動能力（歩く、走る、跳ぶなど）を育む。
- 感覚統合の向上：視覚、聴覚、触覚などの感覚を統合し、環境に適応する力を高める。
- 自己効力感の向上：運動や感覚活動を通じて自信や達成感を育む。

支援内容

1. 運動機能の発達支援

- 基本的な動作（歩行、バランス、姿勢保持）の練習。
- 遊具や運動器具を用いた体幹トレーニングや筋力強化。

2. 感覚統合の促進

- 触覚刺激（砂遊び、水遊びなど）や視覚・聴覚刺激（色鮮やかな道具や音楽）を活用。
- 感覚過敏や鈍麻への対応として、個々の感覚特性に合った活動を提供。

3. 遊びを通じた支援

- ボール遊びやリズム体操など、楽しく取り組める活動で運動と感覚を統合。
- 集団遊びで他者との協調性と社会性も同時に育成。

4. 専門職との連携

- 理学療法士や作業療法士等による専門的なアセスメントと支援計画の作成。
- 必要に応じて個別プログラムを実施。

支援方法

- 子どもの発達段階や障害特性に合わせたオーダーメイドのプログラムを提供。
- 日常生活や遊びの中で自然に取り入れることで、無理なく発達を促進。
- 保護者とも連携し、自宅でも取り組める活動を提案。

“これらの支援により、子どもが自ら環境に適応し、自信を持って生活できる基盤が整います。”

健康・生活支援

目的

- 生命の保持と健康の増進：子どもの健康状態を把握し、適切な生活習慣を身につける。
- 安定した生活リズムの形成：食事、睡眠、遊びなどを通じて規則正しい生活を促進。

支援内容

1. 健康状態の把握と管理

- 定期的な健康診断や体調観察を行い、疾病や異常があれば迅速に対応。
- 感染症やアレルギー疾患への予防策を徹底し、安全な支援環境を整備。

2. 生活習慣の形成

- 食事や排泄、衣類の着脱など、日常生活に必要な基本的な動作を自立できるよう支援。
- 食育活動を通じて、食べる楽しさや感謝の気持ちを育む。

3. 運動と休息のバランス

- 走る、跳ぶなど全身を使った遊びで身体機能を向上させる。
- 午睡や休息時間を確保し、心身のリフレッシュを図る。

4. 衛生管理と安全対策

- 身の回りを清潔に保つ習慣づけや衛生意識の向上。
- 支援中の事故防止策や災害への備えも含めた安全管理。

支援方法

- 個別性への配慮：子どもの発達段階や特性に応じた支援計画を作成。
- 家族との連携：家庭でも取り組める健康管理や生活習慣づくりについて助言。
- 専門職との協力：看護師や栄養士などの専門性を活かした対応。

“これらの取り組みにより、子どもが健康で安定した生活を営む基盤が構築されます。”

認知・行動支援

目的

- 認知機能の発達：感覚や情報処理能力を高め、環境を適切に理解する力を育む。
- 概念形成の促進：空間・時間、数、大小、色などの基本的な概念を習得。
- 行動の適応：適切な行動パターンを学び、行動障害の予防と対応を図る。

支援内容

1. 感覚や認知の活用

- 視覚、聴覚、触覚などを活用し、必要な情報を収集して認知機能の発達を支援。
- 感覚特性（過敏や鈍麻）に応じた環境調整や補助機器（眼鏡、補聴器など）の活用。

2. 知覚から行動への認知過程の発達

- 環境から得た情報を整理・理解し、それに基づいて適切な行動を選択できるよ

う支援。

3. 概念形成と応用

- 物や事象の属性（形、大きさ、色、音）や空間・時間の概念形成を図り、それらを行動の手掛かりとして活用。

4. 数量や色などの習得

- 数量や色、大きさなど具体的な学習活動を通じて基本的な認知スキルを向上。

5. 認知特性への対応

- 個々の認知特性に配慮し、情報処理が円滑になるよう支援（例：こだわりや偏食への対応）。

6. 行動障害への予防と対応

- 認知や感覚の偏りから生じる行動障害への予防策や適切な行動への導入支援。

 支援方法

- 遊びや日常活動を通じた学び：遊びながら概念形成や認知スキルを自然に習得。
- 個別性に配慮した計画：子どもの発達段階や特性に応じた個別支援計画を作成。
- 家族との連携：家庭でも取り組める方法を提案し、一貫した支援体制を構築。

“これらの取り組みにより、子どもが環境に適応し、自信を持って生活できる力を育みます。”

 人間関係・社会性支援

 目的

- 他者との信頼関係の構築：親や保育士など身近な大人との愛着形成を基盤に、他児との関係性を広げる。
- 社会性の発達促進：集団活動や遊びを通じて、協調性や自己表現力を育む。
- 自己理解と行動調整：自分の感情や行動を理解し、適切にコントロールする力を身につける。

 支援内容

1. アタッチメント（愛着）の形成と安定

- 子どもが安心感や信頼感を持てるよう、受容的かつ応答的な関わりを行う。
- 不安定な感情や行動が見られる場合は、大人が「安心の基地」として支える。

2. 遊びを通じた社会性の促進

- 模倣遊びや象徴遊び（ごっこ遊び）を取り入れ、人との関わり方を学ぶ。
- 一人遊びから協同遊びへと段階的に移行できるよう支援する。

3. 集団への参加支援

- 集団活動でのつまづきポイントをアセスメントし、個別に対応。
- 他児との平等な関係構築を目指し、小さな成功体験を積み重ねる。

4. 自己理解と行動の調整

- 自分の感情や行動を言葉で表現する練習を行い、自己調整力を高める。

- 他者の気持ちへの共感力も育む活動（絵本読み聞かせなど）を実施。

支援方法

- 個別性への配慮：子どもの発達段階や特性に応じた支援計画を作成。
- 家族との連携：家庭での取り組みや地域社会での活動参加も視野に入れる。
- 専門職との協働：心理師や発達支援専門職と連携し、適切な支援内容を設計。

“これらの取り組みにより、子どもが他者と安定した関係を築き、自信を持って社会生活に参加できる力を育てます。”

言語・コミュニケーション支援

目的

- 言語能力の発達促進：言葉の理解（受容）と表現（発語）の両面をバランスよく育成。
- コミュニケーション意欲の向上：他者と関わる楽しさを感じ、自発的なやり取りを促進。
- 多様な表現手段の活用：言葉だけでなく、身振りや絵カードなど多様な手段で意思疎通を図る。

支援内容

1. 言語形成と活用

- 具体的な事物や体験と言葉を結びつけ、体系的な言語習得を支援。
- 自発的な発声や簡単なフレーズの使用を促す活動（例：名前呼び、指差し遊び）。

2. 受容言語と 表出言語の支援

- 話し言葉や絵本、歌などを通じて、相手の意図や内容を理解する力を育む。
- 自分の考えや感情を伝える練習（例：「ありがとう」「貸して」など簡単な表現）。

3. 遊びや日常生活でのコミュニケーション

- ごっこ遊びや絵本読み聞かせを通じて、自然な形で言葉のやり取りを楽しむ。
- 保育士等が仲立ちとなり、子ども同士の会話や交流をサポート。

4. 多様なコミュニケーション手段の活用

- 指差し、身振り、サイン、絵カードなどを使い、環境理解や意思伝達を補助。
- 必要に応じてコミュニケーション機器（AAC）や手話も活用。

5. 読み書き能力への基礎支援

- 絵本や紙芝居に親しみ、文字や記号への関心を引き出す活動。
- 発達特性に応じた読み書きスキル向上プログラム。

支援方法

- 応答的・受容的な関わり：子どもの発声や行動に対して温かく応答し、自信と安心感を育む。
- 個別性への配慮：子どもの発達段階や特性に応じた個別支援計画に基づいて進める。
- 家族との連携：家庭でも継続できる具体的な方法（絵本読み聞かせ、簡単な会話練習

など）を提案。

“これらの取り組みにより、子どもが自分の思いを表現し、人との関わりから喜びを感じられる力を育みます。”

 年間行事計画

 年間行事計画

4 月	お花見 こいのぼり制作
5 月	野菜の苗植え
6 月	あじさい製作
7 月	七夕制作 野菜の収穫・食育活動 プール活動(水あそび・泡あそび・ボディペインティングなど)
8 月	プール活動(水あそび・泡あそび・ボディペインティングなど) 野菜の収穫・食育活動
9 月	わくわくまつり
10 月	総合消防訓練
11 月	芋ほり・食育活動
12 月	クリスマス製作 クリスマス会
1 月	お正月の遊び（凧あげ・コマ回しなど） 製作(たこあげの凧・福笑いなど)
2 月	節分の製作 豆まき
3 月	ひなまつり製作・ひなまつり がんばり賞

※消防避難訓練等は毎月行います